7・4　特殊集団における染色体異常の有病率に関する研究－2

東京大学医学部脳研究所
浅　香　昭　雄
南　光　進一郎

研　究　目　的

非行少年・犯罪者集団における性染色体異常頻度は高いという報告が多い。われわれは，日本人非行少年集団中の性染色体異常頻度を調査し，新生児のそれと比較検討した。また，性染色体異常者の行動特徴，身体特徴について検索を行なった。

研　究　方　法

対象はＹ少年鑑別所入所者（昭和４９年２月～昭和５１年３月）である。本人の同意を得た上で，男子にはＸ－クロマチンとＹ－クロマチン検査，女子にはＸ－クロマチン検査を行なった。Ｘ－クロマチンは口腔粘膜塗抹標本，Ｙ－クロマチンは末梢血塗抹標本を用い，それらの数的異常を検索した。異常が疑われた場合は，リンパ球培養による核型分析により異常を確定した。上記期間の入所者は，男子1,２５０名，女子１５９名で，１週間または２週間おきに検査を行なった。外国人，病欠者，検査前に退所した者等を除き，検査実施者は男子１０６５名，女子１５７名である。

研　究　成　果

(1)　男子の中からＸ－クロマチンの数的異常をもつ者は３名みいだされた。このうち２名は核型分析により，４７,ＸＸＹ であったが，他の１名は核型分析は未実施である。この１名の核型は，４７,ＸＸＹ と予想されるが，そうすると４７,ＸＸＹ の頻度は0.２８％（３／１０６５）となる。一方Ｙ－クロマチンの数的異常をもつ者は２名みいだされ，いずれも核型は４７,ＸＹＹであった。従って４７,ＸＹＹ の頻度は，0.１９％（２／１０６５）である。

(2) 女子１５７名の中からはX－クロマチンの数的異常をもつ者はみいだされなかった。

(3) 性染色体異常の男子５名の知能は，正常下限が４名，精神薄弱軽患級が１名であった。

(4) ４７，XYY の２名の身長はいずれも同集団同年令の平均身長より高かったが，１標準偏差以内であった。

(5) ４７，XXY 男子３名の非行・犯罪内容はいずれも窃盗などの財産犯であり，４７，XYY 男子２名のそれは暴行等の暴力犯であった。

考　察　と　要　約

(1) 非行少年男子中の４７，XXY 及び４７，XYY の頻度は，いずれも，日暮・飯島による新生児男子中の頻度（４７，XXY　1/1118，４７，XYY 1/1142 ）より高いが有意差はない。又，Hamerton が欧米新生児中の報告をまとめた頻度（４７，XXY　0.１０％，４７，XYY　0.０９％）よりも高い。この結果は男子における性染色体異常と行動異常との間に，何らかの関連が存在することを示唆している。

(2) ４７，XXY 及び４７，XYY は軽度の知能障害を伴い，それが行動異常のひとつの要因として介在する可能性がある。

(3) ４７，XYY は高い身長の者が多いとされているが，本調査でみいだされた２名の身長は著しく高くはない。

(4) 今回の調査からは，４７，XXY は財産犯，４７，XYY は暴力犯を示す傾向が認められた。

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

研究目的

非行少年・犯罪者集団における性染色体異常頻度は高いという報告が多い。われわれは，日本人非行少年集団中の性染色体異常頻度を調査し，新生児のそれと比較検討した。また，性染色体異常者の行動特徴，身体特徴について検索を行なった。